

▼ 「3. 基本理念」について

【決定事項】

1300年の歴史に感謝し、豊かな食と食文化を未来へつなぐために、奈良の安心・安全な彩りある農林畜産物の生産と消費の循環拡大を目指します。

＜会長：塚本 幾代（奈良女子大学生生活環境学部教授）

●「100年後の世代」は「次世代」でいいのではないか。100年後の世代だと随分世代が飛ぶ。豊かな食と食文化を100年しか繋がらない感じもあり、変ではないか。

⇒委員：藤丸 正明（奈良町情報館館長・地域活性局代表）

●1300年の後に100年また先に続けるようにということだったと思う。「100年後の世代」ではなく「世代」を消して「100年後の奈良に」でいいのではないか。これから先長く続けるという意味では大事。

●農業は一度止めると新しくやるのが結構難しいので、長く守っていくことは必要。100年前に地産地消計画はなかったし、戦後の食料の生産率はすごく低かったので、長い歴史をこれから先につなげていく意味でも、「100年」はいい言葉、いい数字。

●「次世代」というと本当に1世代だけになる。農業はそんなものではない。長く永続可能という言葉を残してもらえたらいい。

⇒事務局

●前回キーワードで1400年というのがキャッチフレーズで出たが、「1400年目の笑顔を目指して」にかかっているのかと思う。

⇒委員：石川 敬之（奈良県立大学地域創造学部准教授）

●具体は次の計画で出てくる。今回初めて次の100年を目指してというのは、次の計画で出てきてもいい。「100年を超えて」というのはどうか。

⇒委員：中島 弘子（奈良市農村生活研究グループ）

●「未来」という言葉を、数字で区切らないで永遠に続くものとして捉えたらどうか。

⇒委員：石川 敬之（奈良県立大学地域創造学部准教授）

●数字で出した方がいいのか、もう少し曖昧なニュアンスを含んだ言葉の方がいいのか。「未来」より「次世代」の方がいいと思う。

⇒委員：藤丸 正明（奈良町情報館館長・地域活性局代表）

●「未来」でいいと思う。

▼ 「4. 基本方針」について

【決定事項】

各項目のタイトルはこのままにし、項目ごとの詳細は3つほどに抑える。例えば（1）であれば「つくる、味わう、育む」の言葉を詳細文に入れる。

＜委員：辰巳 千嘉子（コープ自然派奈良理事長）

●（3）「家庭、学校、地域が連携し命を繋ぐ食の重要性を学び伝えよう」を「～重要性を学び、健康な体を育もう」に変えてはどうか。

- (4)「フードマイレージを削減し、環境負荷を軽減しよう」を「～環境負荷の少ない生産手法を広げる奈良の環境を守ろう」に変えてはどうか。

⇒会長：塚本 幾代（奈良女子大学生生活環境学部教授）

- 「育もう」は上にあるので（1）に入れておいて、（3）は「重要性を伝えよう」がいいのではないか。

- 「つなごう」なのにつなぐがない。あまり意味を変えないで、文章的に考えたらどうか。

⇒委員：石川 敬之（奈良県立大学地域創造学部准教授）

- （4）「守り」は入れた方がいい。

＜委員：藤丸 正明（奈良町情報館館長・地域活性局代表）

- 「奈良を食べよう」だけでいいのでは。「育む」までいくと、3つ目の食育とくっついてくる気もしないではない。何か、言葉が全部皆似ている。

- （3）は食育の教育。「奈良を知ろう」の方がいい。

- （4）「～食料自給率を向上させよう」は、（1）「奈良を食べよう」でいいのでは。

- 一文にいろんな要素が入っているから、もっとシンプルにした方がいい。（1）「～地産地消の料理をつくろう」は（2）とも（3）ともとれる。

⇒委員：石川 敬之（奈良県立大学地域創造学部准教授）

- 細かすぎ、多すぎるのであれば、各項目3文ずつにしてもいいのかもしれない。

⇒会長：塚本 幾代（奈良女子大学生生活環境学部教授）

- 内容は必ず重複してくるから、ちょっと重複していてもいいのではないか。

＜委員：中島 弘子（奈良市農村生活研究グループ）

- （2）「つなごう」と（3）「伝えよう」の言葉の使い方が気になる。多くの人に理解してもらうには、細かい文章を並べるよりも、もうちょっとまとめたらどうか。

⇒会長：塚本 幾代（奈良女子大学生生活環境学部教授）

- 4つより3つ位にまとめた方がいいか。「食べよう」はいい。「つなごう」あたりをまとめた方がいい気はする。4つ位までだったらいいか。

⇒委員：石川 敬之（奈良県立大学地域創造学部准教授）

- 4つでちょうど役割分担ができています。「つなぐ」と「伝える」は、ニュアンスが違うのでこれでいい。次の具体的な計画に落とし込む時に4つ位あった方がいい。

▼「7. 推進方策」について

【決定事項】

9つの項目の内容は全て活かし、項目の組み立てを再考し、項目数をおさえる。
基本方針との対応が分かるように工夫する。

＜会長：塚本 幾代（奈良女子大学生生活環境学部教授）

- 基本方針が4つに対して方策が9つではあまりに多くないか。基本方針と対応させてどこをするために、推進方策のこれが出てきたということにならないと分かりにくい。

⇒委員：石川 敬之（奈良県立大学地域創造学部准教授）

- 基本方針に対応すると、3ページのように細分項目になる。基本方針はシステムチックにやらないといけない。それを全体的にやるためには9つの推進方策がいるということ

で、個別に対応する訳ではないと思う。

- ただ9つはちょっと多い。推進方策9つの中で多少まとめられるものがあると思う。
 - 5ページの「地産地消の効果」は後ろにして、4ページの「地産地消の推進に向けて」の後ろに推進方策を入れれば、流れ的にはいいと思う。
- ⇒委員：藤丸 正明（奈良町情報館館長・地域活性局代表）
- 基本方針は4つなので、基本方策は8個にするべきだと思う。
 - 全体的に文章がもっとシンプルにできる。今のままでは基本方針と推進方策がリンクしない。読んだ後に、ああそうか、こうするんだと伝わってこない。

＜委員：藤丸 正明（奈良町情報館館長・地域活性局代表）

- （3）物流システムと（4）主要供給ルートは、内実的にはほぼ同じこと。
- （3）物流システムと（6）観光施設等における利用促進をくっつけてもいい。地場の流通を拡大させるには、宿泊施設や飲食店などに出していくのがポイントになる。

⇒委員：石川 敬之（奈良県立大学地域創造学部准教授）

- 供給ルートだと物流システムに近いが、販売ルートかと思う。販売と物流は違う。
- （4）主要供給ルートと（6）観光施設等における利用促進は、消費者との接点が共通。（4）は供給というより日常的な販売。（6）は観光に重きが置かれている。
- （5）交流促進と相互理解と（8）情報の発信は一緒にできるのでは。

⇒会長：塚本 幾代（奈良女子大学生生活環境学部教授）

- 地域食材コーナーの設置を拡大する等は、物流システムの中に入らないのか。
- （5）と（8）は一緒にできるかもしれない。
- 組み立てなおせば、まとまるものも出てくる。一応、9項目の内容は全部入れて、できれば、4つの基本方針にぶら下げるようにしたい。

▼「8. 関係者の役割」について

【決定事項】

「関係者の役割」を「推進体制」もしくは「連携体制」、「連携について」等に変更。
「推進体制」の説明を変えて、「関係者の役割」は「消費者」「生産者」「事業者」「行政」「教育機関」の5つにする。

＜会長：塚本 幾代（奈良女子大学生生活環境学部教授）

- ここは「関係者の役割」ではなく「推進体制」でないといけないのでは。
- 生産関連団体とあるが、事業者と書けばいい。JAという事であれば、事業者、加工・流通・販売事業者か。流通関係団体もそうだが、一般的に書かないといけない。
- JAは生産者に啓発しないといけない。生産者関係団体というのが意味不明。ここでは事業者ではないか。
- 関係団体だと何の関係の団体かわからない。事業者関係団体という感じでないと。
- 4ページには「教育関係」というのがさらに出ている。学校などは消費者か関係者か。

⇒委員：岩井 章人（奈良4Hクラブ副会長）

- 学校での田植え実習などの農作業を考えず、食育などであれば消費者と一緒にいい。生産も勉強させるというのであれば、教育関係も別でしておいた方がいい。

⇒会長：塚本 幾代（奈良女子大学生生活環境学部教授）

- 給食の話とか食育の話として、⑤教育機関というのをつけないといけない。

＜委員：藤丸 正明（奈良町情報館館長・地域活性局代表）

- 「事業者及び関係団体同士で連携して、事業所等における納入方法等の仕組みを構築する」は「関係団体が連携し、納入方法等の仕組みを構築する」でいい。

＜委員：中島 弘子（奈良市農村生活研究グループ）

- 結局、店に奈良の商品が並ばなかったら、消費者は買うことができない。私の近辺では4つほどスーパーがあるが、奈良の物はほとんど店に並んでいない。

＜委員：石川 敬之（奈良県立大学地域創造学部准教授）

- 役割という言葉について、消費者は役割を担っているのか。行政、教育関係、事業者、関連団体の役割は分かる。消費者や生産者の役割はどうなんでしょう。

- 役割だと割り当てられて強制感がある。例えば、協力してもらうということ。

⇒会長：塚本 幾代（奈良女子大学生生活環境学部教授）

- 推進体制に、「～消費者、生産者、何とか何とかが連携を図りつつ、～」というように、「消費者」を入れておいたらい。役割というのは結局はアソシエーション。

- 役割の代わりに連携と記載すれば良い。関係者の連携で消費者、生産者、こういうところが連携するということで、文章を考えて頂いたらいい。

▼「1. 策定の趣旨」について

＜会長：塚本 幾代（奈良女子大学生生活環境学部教授）

- 「地産地消の目的」「計画策定のねらい」があるが、どう違うのか。

- フロー図は全部いらぬ。細かい話は基本方針で出てくるので、「策定の趣旨」は、1ページの初めの4行と最後の2行だけ細かく書く必要はない。細かく書くと、後の「基本理念」や「基本方針」を全部変えなくてはいいけない。

⇒事務局

- 目的とねらいを明確に分けている理由はない。

⇒委員：石川 敬之（奈良県立大学地域創造学部准教授）

- 言葉を修正した方がいい。「ねらい」を達成するために「計画」を立てる。理念に対する計画なので、「計画策定の目的」だと意味が変わる。

- 2つ矢印が出ているが、因果関係がずれている。「基本計画」＝「ねらい」。それに対して、具体的に促進計画を行うという内容につながる。矢印は1本で流れた方がいい。

- 「地産地消のねらい」と「基本理念」「基本方針」があまりリンクしていないが、リンクさせないとダメ。

▼「2. 計画の位置づけ」について

＜委員：石川 敬之（奈良県立大学地域創造学部准教授）

- 図のタイトル「■基本計画の位置づけ」とは、総合計画前期基本計画ではなく本件の計画であるなら、分かるように「本基本計画の位置づけ」としてほしい。

- 合わせて、文章の最初の「この計画は」を「本計画は」に変更してほしい。
- ⇒会長：塚本 幾代（奈良女子大学生生活環境学部教授）
- 文章は、「～連携を取りつつ、促進計画につなげることとします。」にすれば良い。つなげるのは「具体的な取り組み」ではなく「促進計画」。

＜委員：藤丸 正明（奈良町情報館館長・地域活性局代表）

- 国と市の関係を表す図になっているが、右に流れるように基本計画の横に促進計画があった方が良い。
- 国の3つの法律は略して、下に※印を打って説明を書くというのはいかがでしょうか。
- ⇒会長：塚本 幾代（奈良女子大学生生活環境学部教授）
- 国の法律だから、簡略化するのは良くない。略号のようなものはあるか。

▼ 「5. 地産地消の推進に向けて」について

＜会長：塚本 幾代（奈良女子大学生生活環境学部教授）

- 今までの集約なので、最初か最後においた方が良い。
- 「地域の活性化と健全な食生活」が書かれているが、全体のテーマのような感じ。それはわかりやすく良い。
- 4ページの図は「8.関係者の役割」の4つに分けておいたらいい。そこに教育機関をつけないといけない。

▼ 「6. 地産地消の効果」について

＜会長：塚本 幾代（奈良女子大学生生活環境学部教授）

- このページをどこに置いたらいいか。今は「地産地消の意義」という感じ。前置きを持ってきて「地産地消とはこういうものだ」という説明になる流れでもいい。
- 「策定の趣旨」に「地産地消」を推進することにより～と続ければ良い。意義を書くならそれで良い。奈良の地図を載せても差し支えはない。
- ホームページに載せるときは、地図もきれいにした方が良い。

⇒委員：藤丸 正明（奈良町情報館館長・地域活性局代表）

- 1～6までがイメージで、後は実務的な動きという流れで作られている。
- 地図にいろいろな思いを込めすぎている。奈良市の生産地と消費地がうまく循環するイメージだが、東部のきれいな農地の写真が入っていれば、大きく雰囲気が変わる。

＜委員：石川 敬之（奈良県立大学地域創造学部准教授）

- タイトルで雰囲気が大きく変わる。「地産地消の効果」だと一般的な概論になり前か後の方が良いが、例えば「奈良における地産地消」だと、このままでもつながる。
- 一般的な話と、地図が入って奈良市の具体的な話が混ざっている。

▼ キャッチフレーズについて

＜委員：石川 敬之（奈良県立大学地域創造学部准教授）

- メールで1人2つほど案を出し、最終的に多数決で決めるというのはどうか。
- ⇒会長：塚本 幾代（奈良女子大学生生活環境学部教授）
- 人によって感覚が違うのでなかなか決まらない。5つくらいに絞って、その中から市長に選んでいただくというのはどうか。

▼ その他

＜委員：藤丸 正明（奈良町情報館館長・地域活性局代表）

- 10～20年前に比べて、農業を取り巻く環境が悪くなっている。先祖代々の農地の近くに、業者が産廃を埋めてしまったり、自治体で農地を簡単に貸してもらえない。農業は、すごく長い時間をかけて作っていくもの。地産地消計画を通して、一般市民に現代社会で農業がどうもがいているのかを意識してもらえる計画書にしてほしい。
- 農業では、前年の1.5倍同じものを作ることは不可能。少し長い目で見てもらいたいし、受け継ぐべき世代の後押しをこの計画でしっかりとできるような形にもらいたい。
- 地産地消は、中央集権体制や都市型の大量生産・消費に対する一つの新しいやり方。遠くの人に1t出すのか、近所の人に100kg出すのか、本来なら値段も変わる。諸々を含め、計画が世の中に出るように、内容をもっと精査していきたい。
- 将来的には、できれば奈良のプランが全国に誇れるようにしたいし、模範になれるようにと思うので、次の若い世代の事を考えてプランを作ってもらいたい。

- 8ページの内容は、消費者なら消費者の場所しか読まないと思うので難しくても良い。進むにつれて詳しくなったら良い。
- 5ページに「生産者」が販売活動を行う」とあるが、本来、生産者は生産者。生産者が販売している輪島や飛騨高山では、5～10年すると生産者が販売者になり、生産をやめている。それを考えると難しい。消費者の感想・意見を直接聞くことはすごく大事。これによってモチベーションが上がるし、次にやるべきことが見えてくる。

- この計画書を新聞社に持ち込んでも「意味が分からない」と返されると思う。皆さんの多くの意見が入っているが、もう一度要点を抽出して、まとめなおした方が良い。
- 計画にはいろいろな背景があるかと思うが、できれば子供でもわかるような言葉で、基本方針をしっかりと文章で作るべき。消費者がこの計画書を最後まで読み、理解してもらえるかどうかで、将来の奈良の農業のあり方は変わってくる。
- 委員がわからない内容は消費者には伝わらない。市民に伝わらない分、行政の存在が見えなくなる。できるだけ理解して伝えていけるようなプランを作っていきたい。
- 基本方針はいろいろな方向から捉えて言葉を足し過ぎて、結果的にまとめにくくなっている。これをうまくまとめ直さないと、市民には伝わらない。

⇒委員：石川 敬之（奈良県立大学地域創造学部准教授）

- 例えばサマリーとして、優先順位の高いものをわかりやすい内容でA3 1枚くらいでまとめ、そこで興味があれば内容をもっと読んでもらう形はどうか。

＜委員：中島 弘子（奈良市農村生活研究グループ）

- 地図の中に、道の駅や直売所の点を入れて、「こういうところでこういうものを販売しています」という風にしても良い。

⇒委員：岩井 章人（奈良4Hクラブ副会長）

●簡単にわかるように奈良市内の直売所を点だけで示してやれば良い。

⇒事務局

●市内に20カ所強あり、直売所や市のカウンターにパンフレットを置いている。この地図の大きさを点として記載しても、店名まで入れるといっぱいになってしまう。

⇒委員：石川 敬之（奈良県立大学地域創造学部准教授）

●これは基本計画なので、次の促進計画のところでかなり具体的に出てくる。

会議の経過を記載して、その相違ないことを証するため、ここに署名する。

会 長 塚本 幾代

署名人 尾崎 敦士